

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- ① 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 市立小・中学校の更新・複合化の前に、新たな学校づくりの方針整備を市民とともに

質問要旨

1967年に建築された小平第十一小学校は、建物の老朽化が進んでいることから建て替えが決定し、その更新について公共施設マネジメントの観点から検討した結果、花小金井北公民館、花小金井北地域センター及び児童クラブの機能を複合化するという方向性が示されました。

小平第十一小の更新・複合化のあり方は、今後同様に老朽化及び更新を迎える他の小・中学校にも、また今後の学校のあり方にも大きな影響を与えるものと考え、以下質問いたします。

1. 小平第十一小学校について

①令和元年度にコミュニティスクールの指定を受けているが、これによりどのような成果が表れているか、市の見解をお示しください。

②十一小の児童数は他校に比べて多く、現在学区内の大規模な開発も続いていることから、今後更なる児童数の増加が見込まれています。市の推計でも2030年には800人と想定されています。40年後の2065年でも推計児童数は500人超となっており、現在の人数から100人程度減少している程度です。こうした状況のなかで、公共施設マネジメントの観点から、どのように対応し他施設との複合化を図っていくのか、見解をお示しください。

③十一小の更新・複合化にあたり、施設を考えるうえで小平市としての教育方針など「これからの学校のあり方」を検討している経緯はありますか。

2. 市としての教育方針について

①国や都からの方向性、ガイドラインの他に、小平市としての取組の方向性はどのように検討され決定されているのでしょうか。

②文部科学省が2021年度予算案の概算要求に、公立小中学校での少人数学級の実現のための予算を金額を明示しない「事項要求」として盛り込むなど、「3密回避」の背景もあり少人数学級制度の拡充に向けた検討が進められていますが、市としてこれを推進していく考えはありますか。

③新学習指導要領を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の取組を推進していくなかで、どのような教室のあり方や教室運営が必要だと考えていますか。

④インクルーシブ教育、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の把握・支援について、どのように充実化させていく方針か、見解をお示しください。

⑤少子高齢化や人口減少により子どもたちを取り巻く状況が変化しても、存在価値・魅力のある学びの場を持続していくために、どんな学校施設の工夫が必要であると考えますか。

⑥地域活動と学校活動の相互作用をどのように考えていますか、一方でセキュリティに関してはどのような対応策を検討していますか。

⑦2018年9月に厚生労働省が策定した「新・放課後子ども総合プラン」において、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を一体型とすることを目指し、整備の際には学校施設を徹底的に活用することとされていますが、市としてこれを推進していく考えはありますか。

⑧小・中学校の更新や複合化にあたっては、公共施設マネジメントの観点のみでなく、施設を新しくするうえでの基盤となる「これからの小平市としての学校のあり方」を検討し、子どもたちの学びに望ましい環境と質の高い教育の提供はどのように実現できるのか、専門家や現役教師をはじめとする現場の担当者、保護者や地域住民など市民の意見を取り入れつつ基本計画を策定し、これを中心に据えた施設づくりが検討されるべきではないかと考えますが、市としての見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和 2 年 11 月 12 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 山浦 まゆみ
受付番号

【 】

27	26	25	24

- (/) -